令和6年度

桐蔭学園　高等学校　学力検査問題

国　語

令和6年2月11日　施行

注意事項

１．試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。

２．机の上には、鉛筆・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には、自分のマークシート冊子以外、何も入れてはいけません。

３．スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。

４．問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、鉛筆を落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。

５．問題冊子の余白などは、自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。

６．問題は２３ページまであります。

７．問題冊子は持ち帰ってください。

第一問　次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

人生には友情が必要である。①では、そのとき友情とは何を意味しているのだろうか。

※アリストテレスは友情を一つの愛として説明する。友達を愛することが友情なのだ。ただし、これではまだ説明になっていない。私たちはどのように友達を愛するのだろうか。またなぜその友達を愛するのだろうか。

アリストテレスの考える愛は、決してすべての人間をフ[a]ヘン的に愛することではない。私たちには、友達として愛することができる人と、愛することができない人がいる。両者を分けるものは何だろうか。それはその人が、愛されるに値する何かを持っているか否か、ということに他ならない。私たちは、その何かを持っている人を愛するのであって、それを持っていない人は愛さないのである。

それでは、愛されるに値する何かとは、具体的には何だろうか。アリストテレスはそうした価値として三つのものを挙げている。②すなわち、「快楽」「有用さ」「善良さ」である。友情とは、相手が持つこれら三つの価値を愛する関係である。そうである以上、友情そのものも、それが相手の何を愛するのかによって三種類に分けられる。すなわち、「快楽に基づく友情」「有用さに基づく友情」、そして「善良さに基づく友情」だ。

快楽に基づく友情とは、相手といることが快楽であるような関係である。ここでいう快楽とは、一緒にいて楽しい、愉快だ、気持ちいい、といったような意味である。特に何かがあるわけではないが、その人といるといつも笑っていて、居心地がよく、他愛のない話ができる。気を遣わず、リラックスしていられる。そうした友達と交わされる友情は快楽に基づくものである。たとえば、教室のなかでふざけて大笑いするだけの友達、一緒にごはんを食べる友達、居酒屋で愚痴（ぐち）を言い合うだけの友達などは、このタイプの友情だろう。

有用さに基づく友情とは、何らかの目的を達成するための手段として、仲良くしている相手との関係である。ビジネス上の友達と言うこともできるかも知れない。たとえば、勉強を教え合うための友達同士は、テストで良い点を取る、という目的のために相手と仲良くしているのであり、その意味では友達を役に立つものと見なしている。また、会社のなかでプロジェクト

のメンバー同士が互いを「戦友」のように扱う場合も、このタイプの友情に該当するだろう。ただし、その関係があくまでも相互的なものでなければ、そこに友情と呼ばれるような関係は成立しないだろう。

善良さに基づく友情とは、相手の善良さに惹(ひ)かれ合うようにして結ばれる関係である。善良さとは、その人自身がもつ優れた性質であり、bタクエツ性や「徳」と言い換えることもできる。平たく言えば、その人のその人らしさ、その人の個性、その人のオリジナルな魅力のようなものだ。たとえば思慮深い人同士が、互いの思慮深さに惹かれ合って交わす友情は、思慮深さという互いの善良さに根差した関係性である、と考えることができる。一般に、親友と呼ばれる友情関係はこのタイプに該当する。

たとえば、「私」にとって快楽に基づく友情を交わす友達として、一緒にごはんを食べる食事友達がいるとしよう。その友達は、「私」よりも勉強の成績は悪く、また正直に言ってかなり性格が悪いかも知れない。そうすると、この友達は「私」にとって何かの役に立つとは思えないし、また優れた人として尊敬できるわけでもない。つまり、有用さと善良さを欠いているのである。しかし、言い換えるなら、そうした要素がなくても快楽に基づく友情は成立するのである。

一方、有用さに基づく友情を交わす友達として、テスト前に一緒に勉強する友達がいるとする。「私」のテスト友達は、普段からかなりの無口であり、一緒にいても話題に詰まることが多く、正直に言って愉快な気分にはならないかも知れない。また、自分の成績が良すぎるためか、成績が悪い人を見下す傾向があり、x折に触れて人を馬鹿にする言葉を口にする。しかしノートは天才的に整理されており、先生よりも学習内容の説明がうまい。このような人と友達であるとき、「私」はその有用さを愛しているのであって、その友達に快楽や善良さはそもそも期待していないのだ。

ただし、アリストテレスの考えでは、快楽に基づく友情と、有用さに基づく友情は、ともにある限界を抱えている。それは、相手が「私」にとって快楽や有用さという価値を失ってしまったら、その友情が成立しなくなってしまうということだ。快楽に基づく友情において、「私」はその友達と一緒にいることで得られる楽しい時間を愛しているのであって、その友達自身を愛しているのではない。また、有用さに基づく友情においても、「私」はその友達がそれに対して役に立つところの目的を愛

しているのであって、やはり、友達自身を愛しているのではない。したがって、そうした価値がなくなれば、その人と友達でいる理由もなくなってしまうのである。

そして、快楽や有用さは、時間の経過とともに簡単に失われてしまうものである。いつも一緒に愉快に食事をしていた友達に、ある日恋人ができれば、様子が一変して以前のように楽しく話せなくなるかも知れない。テスト勉強を教えてもらっていた友達にも、やはり恋人ができて、まったく勉強しなくなってしまうかも知れない。そうなれば友情は解消の危機にさらされる。この意味において、快楽に基づく友情と有用さに基づく友情は、ともに壊れやすい友情であり、その意味において不完全である、とアリストテレスは考える。

③なぜ、快楽や有用さは簡単に失われてしまうのだろうか。アリストテレスによれば、それは、こうした価値がその人自身に備わるのではなく、あくまでも後から付け加わるもの、二次的で副次的なものに過ぎないからだ。アリストテレスはこのような性質を「付帯的」と呼ぶ。付帯的な価値とは、その人がその人自身であることにエイ[c]キョウを与えない価値である。たとえば食事友達は、たとえ恋人ができて付き合いが悪くなっても、人間としては何も変わっていないだろう。「私」にとって、その友達と一緒にいることが楽しかろうが楽しくなかろうが、それはその友達がその友達自身であることと関係ないのだ。

これに対して、アリストテレスによれば、善良さは決して付帯的ではない。その人の長所や個性は、まさにその人自身のものであって、簡単に失われることがないからだ。したがって、善良さに基づく友情は時間が経過しても簡単には失われない。アリストテレスは次のように述べる。

> 愛(フィリア)として完全なのは、善き人々のあいだ、つまり徳(アレテー)の点でルイ[d]ジの人々のあいだに成り立つ愛(フィリア)である。なぜならこの人々は、かれらが善き人であるかぎりにおいて、互いに同じ仕方で互いの善を願いあうのだが、ここでかれらが「善い」のは、かれら自身に基づいてのことだからである。[…]それゆえ、かれらの愛(フィリア)は、かれらが善き人であるというそのかぎりにおいて持続してゆくのである。そして徳(アレテー)こそ、安定した持続性をもつものなのである。

（『ニコマコス倫理学』）

たとえば、思慮深い徳を備えた人は、どんなときでも思慮深い。たとえ恋愛をしても、そうした人は思慮深く恋愛をするのであり、善良さが急変することは考えられない。そのため、善良さを相手に求める友情は、その価値が相手から失われる危険が少なく、友情が解消される可能性ももっとも低い。この意味において、善良さに基づく友情は「【　A　】」を持っており、したがって「【　B　】」なのである。

④もっともアリストテレスは、だから私たちは善良さに基づく友情だけを目指すべきであり、不完全な友情などは交わすべきではない、と考えていたわけではない。彼は、快楽に基づく友情や有用さに基づく友情にも、友情としての価値を認めている。また、これらの友情は確かに不完全ではあるが、しかしだからといって、常にY風前の灯（ともしび）のように、次々と簡単に解消されていくわけでもない。アリストテレスによれば、もしも「私」が、相手に求めている価値と同じものを提供し続けることができるのなら、「私」はその友達と持続的な関係を築くことができる。

たとえば、快楽に基づく友情なら、「私」も食事中に友達が楽しめるように気遣える限り、また有用さに基づく友情なら、「私」も友達のために見事なノートを作って見せるのである限り、たとえ不完全であったとしても、友情を温め続けることはできるのである。

とはいえ、完全な友情と不完全な友情を比較するなら、当然、完全な友情の方が望ましい。そう考えるのが自然だろう。では、善良さに基づく友情を交わすには、どうしたらよいのだろうか。前述の通り、それは善良な人間の間で成立する友情である。そうであるとして、⑤そもそも、どのような人間が善良なのだろうか。

善良さとは個性であり、長所である。ただしそれは何の努力もなしに現れるものではない。アリストテレスによれば、善良さはもともと人間が持っているものであるが、しかし、何らかの活動をすることによって、はじめて発揮されるのだ。

たとえば「私」の善良さが思慮深さだとしよう。しかし、何もしないでいたら、そうした思慮深さは発揮されない。たとえ

ば寝る前に一日を反省してみたり、明日の行動計画を立てたりするときに、その活動に伴って思慮深さが現れてくる。その一方で、このような善良さの発揮を妨げる活動も存在する。たとえば毎日アルコールを飲んでいたら、どんなに「私」が思慮深くても、それは発揮されなくなってしまうだろう。

したがって、善良さを発揮できるためには、自分の善良さが何であるかを把握し、そのためにどんな活動が必要かを熟知していなければならない。そして、自分にとって本当に必要なことをし、必要ではないこと、有害なことは差し控えるべきなのだ。

ここからアリストテレスは非常に面白い発想を語っている。このように自分の善良さを発揮できるよう活動することは、自分自身と友達になることに等しい、と言うのである。

> […]隣人に対して或る人がもち、しかも愛（フィリア）を説明する友人らしい特徴は、自分自身に対する「友人関係」に由来しているように思われる。
>
> なぜなら、人々はまず、相手のために善もしくは善にあらわれるものを願い、行為する人、あるいは友人のために、その人が存在し、生きることを願う人のことを、友人と考えているからである。[…] また、友人とともに生き、友人と同じことを選ぶ人、もしくは友人と同じ苦しみを味わい、同じく喜ぶ人を友人であるとする人々もいる。[…]
>
> しかし、これらの特徴のそれぞれは、高潔な人の場合に、自分自身との関係において成り立っているのである。[…]
>
> なぜなら、高潔な人は自らと意見が一致しており、自らと同じものを魂全体において欲求するからである。そしてそれゆえ、この人は自分自身に善と、善に思われるものを願い、また行為する。
>
> （『ニコマコス倫理学』）

つまり、善良さを発揮することができる人は、まるで友達に対して接するように、自分自身に対して配慮し、自分の善を願える人なのである。そうした人だけが自分の善良さを発揮することができる。そして、善良さを発揮している者同士が、善良

さに基づく友情を交わすことができる。

そうだとすると、善良さに基づく友情は、それに先行して、まず自分自身との友情を前提にしている、と考えることができる。私たちは、他者と完全な友情を交わそうとするとき、他者を愛するよりも前に、自分自身を愛さなければならない。自分を愛することができなければ、善良さを発揮することはできないからだ。ここにアリストテレスの友情論のドクeソウ的な点がある。すなわち、自己への友情が、他者への友情に先行するのである。

だからこそ、自分自身を愛せない人は、他者とも友達になれない。それはどういう人かというと、自分の善良さを理解していない人、あるいはその発揮を妨げるような活動をする人である。たとえば、自分の善良さが思慮深さなのに、毎晩アルコールを飲んで、毎朝二日酔いになっている人がそうである。こうした人は、善良さを発揮できないために、他者からその善良さを愛されることもなく、したがって善良さに基づく友情を交わすことができない。友達はできるかも知れないが、それは、常に⑥不完全な友情に留まってしまうのである。

（戸谷洋志（とやひろし）『友情を哲学する～七人の哲学者たちの友情観』より）

（注）※アリストテレス…古代ギリシャの哲学者。

問1　線部a～eのカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a「フヘン」

1　私は日本各地のほとんどをヘンレキしてきた。
2　絵文字を多用する人をヘンケンの目で見る。
3　テレビの報道番組をヘンシュウする。
4　図形のテイヘンの長さを求める。

b「タクエツ」

1　書類の作成を業者にイタクする。
2　デンタクを使用して計算を行う。
3　自分の案が議会でサイタクされる。
4　本日は早めに仕事を終えてキタクした。

c「エイキョウ」

1　この川が二つの市のキョウカイになっている。
2　飛行機は新幹線とキョウゴウする乗り物だ。
3　バザーは大セイキョウのうちに終了した。
4　花火が大オンキョウをあげながら花開く。

d
「ルイジ」
1　不慮の事態に備えてジゼンの策を準備する。
2　バーチャルリアリティの技術を使ってギジ体験をする。
3　いろいろなジジョウがあって成功した。
4　希望者には成績をカイジする。

e
「ドクソウ」
1　今年でソウギョウ百周年を迎える会社を訪ねる。
2　あらためて選挙で国民のソウイを問うべきだ。
3　彼はすばらしいチャクソウを得て新たな発明をした。
4　優れた芸術にふれて豊かなジョウソウを養う。

問２　――線部X、Yの語句の意味の説明として最も適切なものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

X「折に触れて」

１　良い機会をみはからって　　２　常に機会をうかがって

３　機会が訪れるたびに　　４　徐々に機会が多くなって

Y「風前の灯（ともしび）」

１　危機が迫っていて、滅びる寸前である状態

２　物事が終わる直前の一瞬に、輝いて見える状態

３　迫り来る災難に、万全の準備ができている状態

４　危険を察知して、退避しようと身構えている状態

問３　――線部①「では、そのとき友情とは何を意味しているのだろうか」とありますが、ここでは友情というものがどのようなことを意味していると述べていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

１　私たちが、頼りにすることができる特別な才能を備えた他者に対して格別な親愛の情を示すこと。

２　私たちが、個々に持っている自分の特徴を称賛してくれる他者に対して強い信頼を寄せること。

３　私たちが、自分がひかれる特定の価値を持ち合わせている他者に対して深い愛情を感じること。

４　私たちが、多くの人々を引きつけるような魅力をもつ他者に対して特別な想いを抱くこと。

問4　――線部②「すなわち、『快楽』『有用さ』『善良さ』である」とありますが、この三つの価値に基づく友情についての説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　快楽に基づく友情とは、友達と何という意味もない楽しみを共有できる関係であり、有用さに基づく友情とは、自分の目的を達成するために役立つ相手を一方的に利用する関係であり、善良さに基づく友情とは、自分自身にはないものをお互いが補うように引き寄せられて結ぶ関係である。

2　快楽に基づく友情とは、学校のなかで同じ場所で昼ごはんを食べるだけの関係であり、有用さに基づく友情とは、相手を出し抜いても自分の業績をあげようと相手に近づこうとする関係であり、善良さに基づく友情とは、友達がもつ優れた魅力に人々が自然と取り込まれる関係である。

3　快楽に基づく友情とは、気を遣う必要のない雰囲気を互いに相手に求め合う関係であり、有用さに基づく友情とは、自分が相手の役に立たなくなればすぐに崩壊する関係であり、善良さに基づく友情とは、時がたって自分や他人のもつ美徳が失われてしまえば成立しなくなる関係である。

4　快楽に基づく友情とは、明確な理由はなくても一緒にいるだけで心地よいと感じる関係であり、有用さに基づく友情とは、何かをやり遂げるために有益な相手同士の間に成り立つ関係であり、善良さに基づく友情とは、相手のもつ優れた人間性に双方が魅力を感じ合える関係である。

問5　――線部③「なぜ、快楽や有用さは簡単に失われてしまうのだろうか」とありますが、どうしてですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　快楽や有用さは、それを持つ当人がその価値を付帯的なものであるとわきまえなければ、その価値に基づいた友情は時間の経過とともに壊れやすいものとなってしまうから。

2　快楽や有用さは、それがその人自身の善良さと結びついているものでなければ、持続的で完全な真の友情を結ぶために必要な価値にはなり得ないから。

3　快楽や有用さは、その人自身が持っているオリジナルな魅力とは違って、もともと有している特性ではなく、その人らしさとは無関係の付随的な価値だから。

4　快楽や有用さは、それらの価値がその人自身の意志や努力によって身についたのではなく、後から友達に感化されて身についた二次的で副次的な価値だから。

問6　文中の空欄「【　A　】」、「【　B　】」に当てはまるアリストテレスの言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　A　互いの善　　B　愛（フィリア）

2　A　徳（アレテー）　　B　善

3　A　人々のあいだに成り立つ愛（フィリア）　　B　善き人

4　A　安定した持続性　　B　完全

問7　――線部④「もっともアリストテレスは、だから私たちは善良さに基づく友情だけを目指すべきであり、不完全な友情などは交わすべきではない、と考えていたわけではない」とありますが、このように判断できる理由として不適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　アリストテレスは、快楽や有用さに基づく友情を必ずしも不完全なものであるとは限らないと考えているから。
2　アリストテレスは、どのような友情であっても、友人同士が互いの要求を満たすことで持続できると考えているから。
3　アリストテレスは、相手に対して快楽や有用さを与えられている限り、友情は長く続くと考えているから。
4　アリストテレスは、快楽や有用さに基づく友情であっても、すぐに失われるとは限らないと考えているから。

問8　――線部⑤「そもそも、どのような人間が善良なのだろうか」とありますが、この問いかけに対して、どのような説明がなされていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　善良さは元来人間に備わる優れた個性であり、何かしらの行動の結果、自然と表面化してくるものである。この善良さを表面化させるためには、自分の善良さの特長をとらえ、どんな活動が必要になるかを熟知しなければならない。そして善良な人間とは、自分自身に対して自分の善を願うことができる人間のことである。

2　善良さは人間が個々に持つ美点であるが、それは本人の意識的な行動の積み重ねによって発現する。この善良さを現わすためには、まず自分の善良さが何であるかを知り、どのような行動が必要なのかを理解しなければならない。そして善良な人間とは、他者を愛する前に自分自身を愛することができる人間のことである。

3　善良さはもともと人間が持っている長所の一つであり、たゆまぬ努力のたまものであると言ってよい。この善良さを発揮するためには、自分の善良さがどの点にあるのかをつかみ、それを妨げる活動に対しても理解を示さねばならない。そして善良な人間とは、友人を愛するよりもまずは自分への愛情を優先させられる人間のことである。

4　善良さは人間が生来持っている素質であるが、それは人間が意欲的に何らかの活動をしなければ失われてしまう。この善良さを磨くためには、自分の善良さが何によるのかを把握し、どれくらいの活動が必要になるかをよく考えなければならない。そして善良な人間とは、友人の善良さを願うことをさしおいても自分自身の善を願える人間のことである。

問9　――線部⑥「不完全な友情に留まってしまう」とありますが、これはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　自分の善良さが何であるかに気付いていなかったり、その発揮に対して必要ではない行動をしたりすることで善良さを現わすことが不十分だった結果、本来自分が持っていたはずの善良さを見失ってしまうこと。

2　自分の善良さがどこにあるかを把握できなかったり、その発揮に対しての活動が不十分だったりすることで善良さを現わすことがかなわなかった結果、本来自分が持っていたはずの善良さを他者から評価されなくなってしまうこと。

3　自分の善良さが存在することを信じられなかったり、その発揮に対して努力を怠ったりすることで善良さを現わすことが不十分だった結果、他者との持続的な友情関係を保つことができなくなってしまうこと。

4　自分の善良さが何であるかを理解しなかったり、その発揮に対して有害な活動を行ったりすることで善良さを現わすことがかなわなかった結果、他者と善良さに基づく友情を交わすことができなくなってしまうこと。

第二問　次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

昔、漢の※1高祖と申す帝おはしけり。※2呂后ときこえたまふ后、※3恵太子の母にて誰よりも御こころざし重く見えさせたまひけり。※4ほかばらの親王に趙の隠王と申す人を御こころざしのあまりにや、帝、①※5東宮にたてむと思しける御気色を、呂后見たまひて、あさましう心うき事に思して、②※6陳平・張良ときこゆる二人の臣下を召しよせて、「かかるいみじき事なむある。いかにしてか、この恨みを休むべき」とのたまはするを、げにと思ひけむ、「かなはざらむまでも、はからひはべるべし」と答へて帰りぬ。また、この後、二人の人も世の中の乱れなむずる事をなげきて、おのおのはかり事をめぐらしけり。「※7商山といふ山に世をのがれつつ、帝の召すにも参らで、こもりゐたる賢人四人あり。それをこしらへいだしてこの恵太子につけたてまつりたらば、さりとも、はづる心おはしなむものを」と思ひよりて、③この山の中にたづね行きにけり。四人の人、うち見つつ、おどろきていはく、「何ごとに、いとかくあやしげなる住みかにはわたりたまへるにか」ときこえさするに、「世の中乱れむとつかうまつれば、我らが身にまでもなげき深くて、この山にかくれゐむと思ふ心はべり。しかれども、世の中のほろびおさまらざらむ事は、ただその御心なり」と言へるに、この人うち笑ひて、「君も我に所おき、はぢたまはむ事、いとありがたかるべけれど、むなしう帰したてまつらむも、むげになさけなき様なれば、後の事をかへりみず、今日ばかりは御送りに参るべし」と言へりければ、④限りなくうれしくおぼえて、四人の人を具しつつ、東宮の御もとへ参りぬ。たちまちに※8学士といふ司になりて、ふるまひたまふべきありさまなど、こまやかに教へたてまつるに、⑤たのもしく思さるる事限りなし。

かくて年たちかへる朝、東宮、※9内に参りたまへる御ともに、この人ども四人、いとうやうやしく、ふるまひけだかき様にて、御ともにはべりけるを、帝よりはじめ、つかうまつる人どもも、おのおのあやしげに思へり。帝、「これは誰にか」とたづね問はせたまへる。御ともにはべりける人申していはく、「日ごろ召しつる※10商山の四皓にはべり」ときこえさせたまひ

けるに、⑥御心もおくせられて、あさましくぞ思されける。これによりて、帝、四皓にのたまはく、「我、昔より、なんぢに国のまつり事をまかせむと思へり。しかれどもあへて聴かざりき。しかるを、若くいとけなき東宮にしたがへる心知りがたし」。四皓申していはく、「君は御心かしこくて世の中をたいらげ、国をおさめたまへども、人をあなづり、かしこきをもかろめたまふあやまちおはします。東宮は若くおはすれども、御心おきてなさけ深く、礼儀を正しくしたまふときこえはべるによりて、参りつかうまつれり」ときこえさせければ、「東宮は我よりも心かしこきにや」と思して、⑦この事を思ひ止まらせたまひにけり。かかれば、呂后、陳平、張良よりはじめて、世にある人々さながら心やすくなりにけり。

この趙の隠王の母に、※11戚夫人ときこゆる人は、帝を恨みそねみたてまつりたまひけるを、呂后いやましく、心うき事にぞ思しける。かかるほどに帝※12はかなくなりたまひにければ、東宮、位につきてよろづ御心にまかせたりけれども、呂后、としごろの御いきどをりにや、いつしか戚夫人をとらへて髪をそり、かたちをやつして、あさましく心うき様になしたまひつるを、帝、「かからでもはべりなむ。この事、さだめて先帝の御心にそむくらむ」など、⑧さまざまにいさめたてまつりたまへども、いかにもかなはざりければ、心ぐるしく思しつつ過ぐしたまふに、この趙の隠王さへうしなはむとしたまひければ、帝、夜も御かたはらにはなたずおきふしたまひけり。后、⑨ひまなき事をやすからず思して、毒いれたる酒を、この人に進めたまひけり。帝心得て、「まづ我」とのたまひければ、あはてて取り返しつ。かやうに人知れずねんごろにしたまひけれど、いかなるひまかありけむ、たぐひなく力強き女房二三人ばかりをつかはして、帝の御かたはらにふしたまへる人をなさけなくつかみ殺してけり。※13上、あさましくは思しながら、いふかひなくてやみにけり。

（『唐物語』より）

（注）※1高祖…前漢という国の初代皇帝。姓は劉、名は邦。
※2呂后…高祖の正妻。
※3恵太子…高祖と呂后の子。

※4ほかばらの親王…本妻でない女性から生まれた子。隠王は※3の恵太子とは母親が異なる帝の子である。
隠王の実母は※11の戚夫人。
※5東宮…皇太子。
※6陳平・張良…高祖に仕える人物。
※7商山…中国の陝西省商県の東南にある山。
※8学士といふ司になりて…学士という官に任命されて。「学士」とは官職の名前の一つ。
※9内…宮廷の中。
※10商山の四皓…中国、秦末漢初の乱をさけて、商山に隠れた四人の隠者。
※11戚夫人…高祖の側室。
※12はかなくなりたまひにければ…お亡くなりになったので。
※13上…新たに即位した帝のこと。

問1 ――線部①「東宮にたてむと思しける御気色」とありますが、これは誰がどのように思っている様子をあらわしたものですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 高祖が、可愛いがっている趙の隠王を次の帝にしたい、と思っている様子。
2 高祖が、皇太子である恵太子を早く即位させてしまおう、と思っている様子。
3 呂后が、恵太子の代わりに趙の隠王を次の帝にしたい、と思っている様子。
4 呂后が、趙の隠王を次の帝に立てようとする人々を許せない、と思っている様子。

問2　――線部②「陳平（ちんぺい）・張良（ちやうりやう）ときこゆる二人の臣下を召しよせて」とありますが、誰がどのような目的で陳平と張良を「召しよせ」たのですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　呂后が、帝の後継者争いから恵太子が追い落とされることを防ぎ、趙の隠王の即位を阻止する目的。
2　呂后が、無益な次の帝の後継者争いを未然に防ぐことで、世の中の混乱を何とかおさめようとする目的。
3　高祖が、自分の後継者争いで不満を示した呂后の機嫌をとることで、自分の意のままに事を運ぼうとする目的。
4　高祖が、次期皇帝の座をひそかに狙う趙の隠王の動きをけん制するとともに、呂后の懸念を解消しようとする目的。

問3　――線部③「この山の中にたづね行きにけり」とありますが、これはどうしてですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　高祖の治める世で政治的な失敗を犯し、商山に逃れて立てこもった賢者たちを捕まえて恵太子の前に引き出すことで、高祖の汚名を挽回しようとしたから。
2　高祖が従わせることができずに逃げられてしまった賢者たちを捕らえて恵太子に従わせることで、高祖をはずかしめて帝の座から追い落としてしまおうとしたから。
3　高祖にその知恵を高く評価された賢者たちを山から呼び戻して恵太子につき従わせることで、恵太子を帝の立派な後継者候補として高祖に認めさせようとしたから。
4　高祖や恵太子と政治的に対立したことが原因で世を捨てて山にこもった賢者たちを説得することで、次の帝である恵太子の代の政治を盤石なものにしようとしたから。

問4　――線部④「限りなくうれしくおぼえて」とありますが、これはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　陳平・張良が、あなたたちを説得できなければ自分たちも世を捨てる覚悟だと真剣に訴えたことに対して、四人の賢者たちが自分たち二人の願いを受け入れてくれて、大変うれしく思ったこと。

2　陳平・張良が、世の中の動乱を防ぐことができるのはあなたたち次第だという説得を試みたことに対して、四人の賢者たちが自分たち二人についてきてくれることになって、大変うれしく思ったこと。

3　恵太子が、帝の後継者争いで世の中が乱れることを心配して身を引く事も考えていると伝えたことに対して、四人の賢者たちが自分への理解を示してくれて、大変うれしく思ったこと。

4　恵太子が、後継者争いによって起きる世の中の乱れを放っておく訳にはいかないとの決意を表明したことに対して、四人の賢者たちが自分への協力を約束してくれて、大変うれしく思ったこと。

問5　――線部⑤「たのもしく思さるる事限りなし」とありますが、誰がどのようなことについてそのように思ったのですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　陳平・張良が、賢者たちによる、恵太子の心身を頼もしく成長させようとする厳しい指導について。

2　恵太子が、賢者たちから学士としてのふさわしい教養や作法をみっちりと教育してもらったことについて。

3　陳平・張良が、賢者たちから恵太子に皇族の仲間入りをするための教育がきめ細かく施されていることについて。

4　恵太子が、賢者たちによって帝の後継者としてのあり方を細やかに指導してもらったことについて。

問6　――線部⑥「御心もおくせられて、あさましくぞ思されける」について、次の二つの設問に答えなさい。

i　この部分の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　帝は驚かれて、賢者たちのあつかましい言動を、見苦しいことだとお思いになった。
2　帝はしり込みされて、賢者たちの気高いふるまいを、いまいましいことだとお思いになった。
3　帝は気おくれされて、賢者たちの突然の出現を、意外なことだとお思いになった。
4　帝はご立腹になって、賢者たちの気まぐれな性格を、許せないことだとお思いになった。

ii　帝がそのように思ったのはどうしてですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　かつて自分が国の政治を委ねようと思って相談した時には賢者たちはそれを引き受けなかったのに、現在は未熟な恵太子に忠実に付き従っていることが理解できなかったから。
2　かつて自分が帝の座を明け渡そうとして相談した時には賢者たちはそれを拒絶したのに、現在は幼い恵太子の後ろ盾となって政権を我が物にしようとしていることにあきれ果てたから。
3　かつて自分が一緒に国の政治をとり行っていこうと相談した時には賢者たちはそれを面倒くさがったのに、現在は頼りない恵太子に取り入って国の政治に興味を示している変化に驚いたから。
4　かつて自分が帝の座を誰に譲り渡したらよいかと相談した時には賢者たちは判断を避けたのに、現在は力をつけてきた恵太子に帝の座を譲り渡せという変わり身の早さに怒りをおぼえたから。

問7　――線部⑦「この事を思ひ止まらせたまひにけり」とありますが、帝がそのようにしたのはどうしてですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　帝は世の中をしっかり治めてはいるものの、他者を正当に評価しようとしないことを賢者たちから指摘された。そしてその賢者たちが、恵太子が備えている他者への寛容さや礼法への厳格さを自分よりも高く評価していることを知って、次の帝はやはり恵太子にするほうが適切であると考えるようになったから。

2　帝は民に深く親しまれながら国を統治している存在ではあるものの、賢者たち以外の人間と気安く付き合いすぎることをその当人たちから指摘された。そしてその賢者たちをうとましく思った帝は、礼儀正しく人間的に立派な成長をとげた恵太子がいれば国の政治をもはや賢者たちに任せる必要はないと考えるようになったから。

3　帝は国の中を立派に治めてはいるものの、自分たち賢者の存在を軽んじて政治を任せようとしてくれていないことをその当人たちから指摘された。そして帝は賢者たちがその高い人徳をしきりにほめたたえる恵太子のことを警戒するようになり、その背後にいる賢者たちを国の政治に関わらせることは危険だと考えるようになったから。

4　帝は世の中を問題なく統治しているように見えているものの、実際には家臣たちからあなどられており、性急な政権の放棄は過ちにつながると賢者たちから指摘された。そして賢者たちの忠告をうけた帝は、賢く成長した恵太子を次の帝にひとまず指名して、自分は上皇として権力を維持するのが妥当だと考えるようになったから。

問8　――線部⑧「さまざまにいさめたてまつりたまへども」とありますが、新たに即位した帝がそのようにしたのはどうしてですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　新たに即位した帝が、戚夫人の長年のねたみの対象になっていたことに母の呂后は気付いていた。その母があえて戚夫人に酷たらしい処遇をすることで、他の人々にも同じような思いをもたせないように図ったことを理解したから。

2　戚夫人は、かつて先帝が隠王を次の帝にしなかったことを恨んでおり、新たに即位した帝もまた戚夫人にひどく恨まれていた。それに対して腹を立てた母の呂后が戚夫人に制裁を加えたが、その内容が行き過ぎであったから。

3　新たに即位した帝の父高祖は、後継者争いに敗れた戚夫人と隠王の今後を心配していた。父亡き後、母呂后の戚夫人に対する虐待によってその心配が的中し、父の代わりに二人を守ることができるのは自分しかいないと決意したから。

4　新たに即位した帝の母である呂后が、強い権力を手にするとすぐに戚夫人に対して残酷なふるまいをするようになった。母は長い間、戚夫人のことを不愉快に感じていたのかもしれないが、それでも目に余る行動だと感じたから。

問9　――線部⑨「ひまなき事」とありますが、「ひま」とは具体的にはどのようなことをあらわしていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1　新たに即位した帝が母呂后を改心させようとする説得のこと。

2　新たに即位した帝が趙の隠王の身を守ろうとする覚悟のこと。

3　呂后が趙の隠王をひそかに暗殺しようとする機会のこと。

4　趙の隠王が新たに即位した帝の保護をあてにしようとする態度のこと。

問10　この話の中の登場人物について書かれた次の記述の中で、不適切なものを二つ選び、その番号をマークしなさい。

1　趙の隠王は、呂后からは疎(うと)まれたが、高祖からは目をかけられ、恵太子はその身の安全を守ってやろうとした。

2　陳平・張良は高祖や呂后の家臣ではあるが、ただ忠実なだけではなく、世の中の平和を第一に望んでいた。

3　恵太子は賢く、礼儀作法や立ち振る舞いに秀でてはいるが、その一方で優柔不断であった。

4　呂后は、帝の死後は息子の恵太子の後継者としての資質に失望しはじめていた。

5　高祖は、自分の正妻であった呂后を、このうえもなく愛しているようであった。

6　戚夫人が自分の息子を皇太子にしたいと望んだことで、その息子は命を落とした。